

田辺 一乃 のネタいろいろ

修羅場調子 (講談独特の語りです)

「三方ヶ原軍記」

前座が最初に勉強する古典です。言葉が古くて難しいですが、読み込んでいくうちに講談の発声や間の取り方、言い回しを身に付けることができます。一番難しく、一番好きなネタです。

「酒井の太鼓」

孤城にかかって絶体絶命の家康公。酒井忠次が悠々と打った暮れ六つの太鼓の音を聞いた信玄公、何か策略があるのではと用心し、兵をまとめて引き揚げてしまう。

「大久保彦左衛門鳶ノ巣山初陣」

天下の御意見番大久保彦左衛門、講談では白髪頭の老人で「十六歳の初陣に鳶ノ巣文珠山の戦いで敵の大將の首をあげっ」と昔の自慢話をする決まりですが、その華々しい初陣の有様です。

「巴御前」

木曾義仲を逃がすため、板東武者の前に立ちはだかった幼馴染みの巴御前。名だたる大將との痛快な一騎打ちと、悲壮な義仲最期のコントラストが美しい一席。

「藤戸の渡し」

名將佐々木盛綱と、漁師の仲を亡くした母親の、涙を誘うお話。

「敦盛の最期」

おなじみ「青葉の笛」。源氏の武將 熊谷直実と、美しすぎる平家の若公達、平敦盛のエピソード。

「明智左馬之助湖水渡り」

本能寺の変起こり、坂本城を目指し琵琶の湖水を馬で乗っ切る、明智一族の左馬之助。近江八景を読み込んで、美しく講じます。

道中付け 言い立て

「長州五傑 英国密航」

若き伊藤博文らが横浜から倫敦まで、通過地点を読み込んで3ヶ月の船旅を90秒で駆け抜ける。

「東京オリンピック入場行進」

亡き田辺一鶴の昭和のレガシー。昭和39年のあの日、参加94カ国の国名をよどみなく。

「妖怪軍団修羅場」

田辺一鶴は若い頃、水木しげる氏と友達で、漫画に登場することも。晩年800匹の妖怪を読み込みましたが、私は150匹で申し上げます。

「赤穂の早打ち」

江戸から宿場名をすべて読み込んで、浅野内匠切腹の知らせの早駕籠が飛んで行きます。

「義士の討ち入り」

四十七士が総登場いたします。

家来頑張る (ビジネスマンの心に沁みます)

「愛宕山出世の春駒」

曲垣平九郎が愛宕山の石段を馬で駆け乗るリズムカルな一席。

「村越茂助 誉れの使者」

茂助、主人家康の口上を忘れたが、秀吉公に堂々と。

「孝行市助」

筑紫市兵衛、実力を隠して仕官の道を探る。

「大橋茂右衛門」

不屈のシルバー人材返り咲き。

「武士気質 小田小右衛門」

たったひとつの嘘のお詫びに、粉骨砕身の努力。

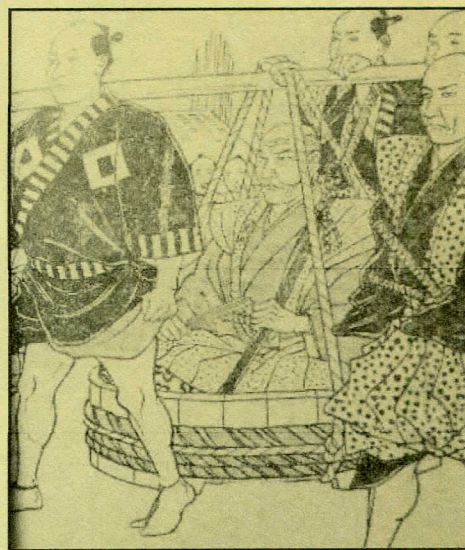
「楠泣男」

泣ける話で機転を利かせる楠正成の迷家来。

「盟の登城」

曲がった道を正すため、大久保彦左衛門、盟に乗って江戸城へ。

「盟の登城」



人情ほのぼの

「曲馬団の女」・「名刀捨丸」・「正直車夫」・「清十郎酒屋」・「二宮金次郎」・「奴お初」・「北斎と文晁」・「泥棒酒屋」・「見えたか甚兵衛」・「堀の小まん」

血みどろ・悲劇

「松平外記 千代田の刃傷」・「桜田門外の変」・「細川ガラシャ」・「向島狸騒動」・「地獄の使い」

怪談

「小猿七之助」・「江島屋怪談」・「振袖火事」・「牡丹灯籠」・「護国寺の鐘」・「北斎駕籠幽霊」・「幽霊の立退」・「応挙の幽霊画」・「菅原道真」

赤穂義士伝

「大高源吾と宝井其角」・「杉野十平次と俵星玄蕃」・「堀部安兵衛」・「天野屋利兵衛」

連続講談

「塩原多助」・「藪井玄意」・「稲葉小僧新助」・「上杉鷹山」・「八犬伝」・「伊達誠忠録」・「関口武勇伝」

新作・創作講談

「奥尻島の津波」・「伊藤左千夫と明治の大水害」・「浜口梧陵 世界津波の日の由来」・「ナナハン・ライダーズ」(墨東防災講談)・「平成鼠小僧団」(オレオレ詐欺撃退講談)・「鮎釣り公方」・「前田利常」・「勝海舟」・「海舟の妻」・「ジョン万次郎」・「江川英龍」・「クーベルタン男爵」・「第五福竜丸」・「ゴジラ誕生」

江戸東京野菜講談

「品川蕪汁の由来」・「府中御用瓜」・「二郎三郎種屋街道」(滝野川人参牛蒡)・「千住一本葱幽霊」・「家斉公と三河島菜っぱの河童」・「鷹公方と小松菜」・「綱吉様と練馬大根」・「おいねのつる芋」・「新宿内藤唐辛子」・「寺島茄子の由来」・「竹翁筍奮闘記」・「ジョン万次郎と亀戸大根」・「寺島茄子と多聞寺の狸」・「水戸黄門とパクチー」(江戸東京野菜ではないのですが)・「周利槃特と茗荷」・「早稲田茗荷思い出語り」 現在16席



「明智左馬之助湖水渡り」

等々、200席以上で増殖中
創作講談承ります
何処でも一席伺います
お気軽にご連絡を
090-1468-0742
一乃